

所小っ子



所沢市立所沢小学校

学校だより 令和6年6月
No.3

学校教育目標

○あたたかい心

○よりかしこく

○よりたくましく

心のエネルギープロジェクト

校長 戸村達男

所沢市教育委員会では、6月・7月を「心のエネルギープロジェクト月間」としています。

「心のエネルギープロジェクト」とは、

あなた自身が、かけがえのない存在であること。

あなたと同じように、隣にいる友だちも、かけがえのない存在であること。

夢や希望をもって前向きに生きていってほしい、と大人たちが願っていること。

を子どもたちに伝えるためのプロジェクトです。

もっと端的に言うなら、「命の大切さを子どもたちにわかってほしい」。そのためのプロジェクトだと私は理解しています。

現代は、「命の尊さ」を実感しにくくなっている時代であると言われます。

- ・核家族化、医療体制の整備により、身近な人を直接看取ることが少なくなったこと。
- ・TVなどで、戦争によって「〇〇人が犠牲になった」「〇〇人死亡」というような報道が毎日のように流され、命を落とすことは大変なこと、とは感じにくくなってしまっていること。
- ・子どもたちの身近なゲームの世界では、「敵を倒す、殺す」が善であるような戦闘ゲームも多く、蘇生カード、リセットボタンで簡単に命がよみがえるなど、命の扱いが軽いこと。

子どもたちのそばにいる教員という仕事をし、家庭でも父親である私ですが、「命の大切さ」について、子どもたちはどう感じているのか。何を思い、何を実感しているのか。正直なところわかりません。

わからないのですが（わからないからこそ）、命の大切さについて、何度でも、繰り返し語っていく、伝えていくことは大切なのではないかと思うのです。

6月4日の校長講話で次のような話をしました。

所沢小学校の皆さん、おはようございます。今日のお話は、「命」についてです。

命は1つしかない。当たり前のことです。でも校長先生が、そのことを本当にわかった、実感したのは自分が小学校4年生くらいのころのことです。

そのころ、おばあちゃんが病気で入院しました。かわいがってもらっていた、大好きなおばあちゃんだったので、早く元気になってもらいたいと思っていましたが、なかなかよくなりませんでした。ある日、入院している病院にお見舞いに行きました。おばあちゃんのからだには、たくさんのチューブやコードみたいなものがつながれていました。しばらくそばにいましたが、おばあちゃんは目を覚まさないで、小さかった校長先生はつまらなくなって、病院を探検しに行きました。その後、廊下のソファでちょっと眠ってしまったようです。目が覚めて、病室に行ってみると、おばあちゃんの体からチューブやコードがなくなっていました。校長先生は、自分のお母さんに「おばあちゃん、よくなったんだね」と言いました。でも返事はありません。周りには、ほかに、たくさんのおじさんやおばさんたちがいましたが、誰も返事をしてくれず、みんな黙っているだけでした。校長先生はその時、はっと「おばあ

ちゃんは死んじゃった」と理解しました。「死んじゃうって、こんなにあっけないものなんだ」と思いました。火葬されたおばあちゃんの骨を捨てる時、おばあちゃんの命がなくなったことを実感しました。

このあとも、何回も、人の命がなくなるという、悲しい場面に出会いました。そのたびに、命は1つしかない。だから大切にしなければならないものだ。自分の命も、人の命も1つしかないんだから、なによりも大切にしなければならないものなんだ、と感じます。

皆さんはまだ、人の命について、しっかり考えたことがないかもしれません。本当の意味で、人の命の大切さがわかるのは、もうちょっと先の事なのかもしれません。だからこそ、校長先生は、何度も言います。担任の先生も何度も言います。お父さん、お母さんも、まわりの大人たちも何度も言わせてもらいます。

人の命は「かけがえのない」大切なものです。あなたの命は、「かけがえのない」大切な命です。そして、あなたはあなた。あなたの代わりはいないのです。

さらに、あなたが、かけがえのない存在であるのと同じように、あなたの隣にいる友だちの命も、かけがえのない大切なものです。その隣の友だちも、そのまた隣の友だちも、隣のクラスの友だちも、みんなみんなかけがえのない存在なんです。だから、支え合って生きていきましょう。助け合って生きていきましょう。

これで校長先生の話が終わります。

保護者の皆様、もしよろしければ、自分自身が命の大切さを実感した出来事、経験を子どもたちに語っていただくというのはいかがでしょうか。

「お母さんが、命って大切なんだなあ、って実感したのは……。」

「お父さんが高校生の時にね、……。」

子どもたちにとっては、校長講話の何倍も心に響くと思います。

そして子どもたちとの会話を通じ、子どもたちが「命の尊さについてどう思っているのか」を感じ取っていただくとともに、心に寄り添い、励まし、「かけがえのないあなたを愛している」という思いを伝えていただければと思います。

このような出来事からも……

このところ、女子トイレで、使っていない予備のトイレットペーパーが丸ごと、サニタリーボックスの中に入れられるという出来事が続いています。

先日は、ガムの包み紙がトイレに、噛んだ後のガムが図書室に、なんていうこともありました。関係する子どもたちには事実を話し、知っていることがあったら教えてほしいと伝えているところです。

このような出来事に対応するときも考えるのは子どもたちの「心のエネルギー」。私たちは何より「子どもたちの心」の状態を心配します。もちろん、間違っただけの行為に対しての指導は行いますが、まずは、いけないことだとわかっていてそんな行為をしてしまうお子さんの心に寄り添い、苦しみやイライラ、悩みを少しでも解消してあげたい、そう思います。



1年生と2年生の学校探検。2年生が優しく手をつないで1年生を案内しています。心がほっこりする後ろ姿ですね。このように、心があたたかく、ほっこりする場面や行事、出来事を学校中に増やしたい。これも所沢小学校の「心のエネルギープロジェクト」です。